

旭川市制100年 チャレンジの年に!

Vol.42



東京旭川会 会報

第42号：令和4年(2022)3月25日発行
発行：東京旭川会 〒359-0041
埼玉県所沢市中新井4-24-3 (高木宏明)
TEL/FAX：04-2942-8455
e-mail：asahikawakai_tokyo@yahoo.co.jp
編集：東京旭川会広報チーム

*【予告】本年度第44回の総会・懇親会は、10月22日(土)午後5時からの予定です。

旭川市は大正11年の市制施工から100周年を迎えました。コロナ禍など色々な困難を乗り越え明るい未来に向かう旭川を応援しましょう。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、東京旭川会の総会・懇親会は2年続けて開催を見合わせました。当会の長い歴史のなかでかつてない事態となり、大切な会員相互の交流が叶いませんでした。

国内では徐々に収束の兆しが見えはじめていますが、変異株の流行もあり警戒の手を緩めることは出来ません。更に、運営に指針を示していただいた元会長の原公朗さんが昨年11月に逝去されました。在りし日のお姿を偲びつつ、心よりご冥福をお祈りします。

原会長時代に事務局長を務められた朝比奈さんが追悼文(4頁)を書かれていますので一読ください。

しかしここで会の活動の歩みを止めるわけには参りません。これから先、会をどう進めるべきか、新しい発想を提案するよう幹事の皆さんにお願いいたします。



ご挨拶

東京旭川会
会長 加藤桂子

加藤会長をはじめ東京旭川会の会員の皆様におかれましては、日頃から旭川の応援団として様々な面で御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は、第28代旭川市長として、日々課せられた使命の大きさと重責をひしひしと感じながら、ふるさと旭川のまちづくりの進捗しております。

旭川市は本年、市制施行100周年を迎えるほか、平和通買物公園の誕生50周年や、旭川市出身の作家三浦綾子さんの生誕100周年を迎える年であります。

市民はもちろん、本市にゆかりのある皆様も、これまでの歩みを振り返る



旭川市長
今津寛介

旭川へ! ワクワクするまち、 特別寄稿

「東京旭川会」の皆様には、貴会発足当初から歴代会頭をはじめ、多くの役員が大変お世話になっており、心より御礼申し上げます。

さて、旭川市におきましてもコロナ禍による地域経済への影響は依然として厳しい状況が続いており、その中で「役に立つ商工会議所」をスローガンに地域企業の期待に応えるべく、支援事業を推進させていただいております。

また、コロナ収束後の地域経済の回復には、食と観光の発展が重要であり、皆様ご承知のとおり、旭川市には雄大な自然をはじめとする観光資源と美味しい食材が豊富にごございますことから、東京旭川会の皆様には、引き続き多くの方々に広めていただきますようご協力をお願い申し上げます。

結び、東京旭川会の今後益々ご隆盛と会員の皆様のご健勝とご多幸を衷心よりご祈念申し上げます。



旭川商工会議所
会頭 新谷龍一郎

旭川市の地域経済について

「駅チカで冬のアクティビティはいかが?」

当協会では旭川駅構内にて旭川観光物産情報センターを運営しており、今年から同センターに併設して「北海道大雪地域アクティビティセンター」の運営を開始し、旭川や近郊で体験できるアクティビティの紹介や道具のレンタルに力を入れています。

特におすすめるのは旭川駅を出てすぐ体験できるアクティビティです。例えば自転車。当センターでお好きな貸自転車を選んだら、旭川駅に直結したサイクリングロードからすぐに出発して自然豊かな景観を楽しむことができます。なんと冬には圧雪された自転車コースが整備され、太いタイヤの自転車を選べば雪上で新感覚のサイクリングが楽しめます。

また、歩くスキー、スノーシューの貸出しも行っており、こちらも旭川駅を出てすぐ体験できる環境が整っています。

駅を出てすぐにこんなにアクティビティができる環境は日本でも旭川だけ!?ぜひ皆様も旭川駅や周辺でアクティビティを体験してみてくださいね!!



▲ファットバイク



旭川観光
コンベンション協会
事務局次長 鈴木雄太

旭川のトピックス

旭川大雪圏域連携中核都市圏が発足

旭川市は、経済・観光・農業など多分野で連携を強化し、圏域の住民全体の暮らしを支えるために、近隣の1市8町（鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町）と連携協約を締結しました。



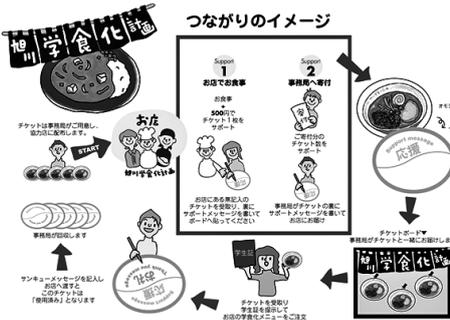
▲連携協約調印式とロゴマーク

「旭川学食化計画」

コロナ禍で大変な学生さんたちを旭川の街のみならず支援しようという取組みが進行中です。仕組みは旭川学食化計画実行委員会（代表/平島淳嗣）や参加店に寄せられた寄附を元に、学生さんが参加店に食事チ



ケットと学生証を提示すると、指定メニューが無料で食事ができるというもの。参加店も20店舗を越えました。



▲旭川学食計画のながれ

フジテレビ「めざましテレビ」や北海道新聞、朝日新聞でも大きく取り上げられました。旭川市は本件をHPで紹介し応援を呼びかけています。個人の寄付に加え企業協賛型の寄付が開始され、クラウドファンディングも計画されています。

旭山動物園発！

「動物墨画パフォーマンス甲子園」

旭山動物園の新しい取組として、書道パフォーマンス大会「動物墨画パフォーマンス甲子園」の第1回目が昨年の8月8日に市内の道北アークス大雪アリーナで開催されました。動物の



▲優勝の旭川西高書道部A

力強さや迫力、命の尊さを新しい表現スタイルで確立し、動物に対する関心を更に深めるのが趣旨。第1回目の参加は市内の高校書道部6校7組です。縦4メートル、横6メートルの紙に大小の筆で絵と文字で思い思いに表現。優勝は旭川西高書道部Aでした。



▲作品

「夜明けく先生と子どもたちの最後の夏」

昨年9月25日のNHK放送で旭川商業高校吹奏楽部が取り上げられました。同校はこれまで全日本コンクール金賞2回の名門校。その吹奏楽部の名物先生と生徒たちが、悲願の全国大会出場を目指して奮闘した熱い夏を追うドキュメンタリー。定年を迎える熱血先生と生徒たちの思いが伝わった最後の夏のドラマでした。



▲熱血先生、佐藤淳先生最後の指揮

世界へ羽ばたくジュニアを育成する

柔道場建設プロジェクト

柔道の世界大会優勝の実績を持つ旭川南高出身の上野巴恵さん。オリンピック優勝も含むその3姉妹の母の上野和香子さんと共に当麻町でジュニアの育成をしています。

上野さん宅と一緒に住み、練習に励む中学ジュニア選手の皆さんは、遠く遠軽・襟裳・別海から来ていて育成のための新しい道場も上野さん宅そばに、クラウドファンディング資金で建築が進んでいます。



▲子どもたちを世界の舞台に

東京の旭川

どさんこプラザ羽田

空港区オープン
昨年の6月、羽田空港第一旅客ターミナル2階出発ロビーに北海道どさんこプラザ羽田空港店がオープンしました。



▲第一旅客ターミナル2階出発ロビーに

日本醤油工業キッコーニホン、農林水産大臣賞受賞
第48回全国醤油品評会（10月）で旭川の日本醤油工業（株）キッコーニホン特級が農林水産大臣賞を受賞しました。

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止になりましたが、2021年は様々な感染防止策を講じて開催され、出品総数268点から選ばれた農林水産大臣賞受賞（5点）です。



▲新聞発表

旭川南高校同窓会 東京支部発足！！

旭川関係者の絆がまた強まります。東京には旭川の各高校の同窓会がありますが、旭川南校の同窓会組織がこれまでありませんでした。この度、同校OBで東京旭川会の幹事でもある26期の本島英人さんの働きで東京支部が正式に発足する運びとなりました。東京とこれからの同郷の繋がりが一層拡がることを思います。



▲旭川南高等学校の同窓会の風景

旭川出身者の活躍・コロナの影響下でも皆さん各分野で活躍しています

「2020東京オリンピック」に旭川出身者が出場し活躍しました！



▲町田選手と北口選手のイラスト
ブログ旭川美都より引用
(旭川出身の漫画家・さくや一歩さん)

★女子バスケットボール 町田瑠唯選手

町田選手は、チームの司令塔として日本代表チームをけん引し大活躍。予選リーグ、準々決勝、準決勝と勝ち抜き、決勝進出に貢献しました。決勝では体格で圧倒的に優るアメリカと熱戦を展開。惜しくも敗れるものの、日本にバスケットボールでは初めての銀メダルをもたらしました。



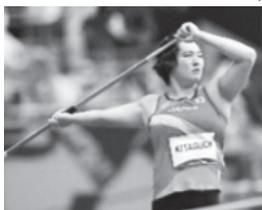
▲NHK東京オリンピック・パラリンピックサイトから引用

町田選手は旭川緑ヶ丘中学校出身

で富士通レッドウェーブに所属。今年2月にはWNBAのワシントン・ミスティクスと選手契約を結び、5月からの新シーズンに参加の予定です。これからのさらなる活躍が楽しみです。

★女子やり投げ 北口榎花選手

北口選手は予選を62.06m、全体6位で通過し、1964年の東京オリンピック以来、57年ぶりとなる決勝に進出しました。決勝では左脇腹に痛みを抱えながらも55.42mで惜しくも12位でした。直後のインタビューでは、「笑っている私も、泣いている私も、両方自分なので、泣いていて私を見ないでほしい：まだ自分が歴史を変えられるチャンスはある。次はもっと元気に、世界大会のここ（取材エリア）を通れるようにしたい」と前向きな姿勢でした。



▲日本陸上競技連盟公式サイトから引用

今大会での決勝が「最高の通過点」となるよう、2年後のパリへ向けてこの経験をどう生かしているのか、北口選手の新たな戦いは始まっています。

★宝塚歌劇 宙組トップ娘役 潤花さんも出演

オリンピックの閉会式で国歌斉唱をおこなったタカラジェンヌ20名の中に潤花さんの姿もありました。

北京オリンピックでも活躍しました

北京オリンピックに旭川市出身ゆかりの選手7名が出場しました。アルペンスキーマの安藤麻選手、カーリングの石崎琴美選手、鈴木夕湖選手、クロスカントリーの石田正子選手、スキージャンプの勢藤優花選手、高梨沙羅選手、スノーボードアルペンの竹内智香選手です。特に竹内選手は冬季日本女子では単独最多となる六大会連続出場を果たしました。皆さん各競技において果敢に挑戦しており、その姿は印象的でした。



▲北京オリンピック出場を祝して旭川市役所総合庁舎に掲揚された懸垂幕

テレビドラマ

「日本沈没—希望のひと—」2021年は、桜島、阿蘇山などの噴火や、中規模の地震が各地に頻発しました。

TBSでは2021年10月から「日本沈没—希望のひと—」が放送されました。原作は1973年に刊行された小松左京による不朽の名作「日本沈没」。この原作に大きくアレンジを加え、2023年の東京が舞台。今だから描くべき物語。沈没と

日曜劇場 日本沈没—希望のひと—

▲番組サイトから引用

いう目に見えない危機が迫る中で「見出していく希望」をテーマに描かれました。脚本は、旭川出身の橋本裕志さんです。橋本さんは旭川北高校を卒業、大学時代は演劇部で活動。「華麗なる一族」「官僚たちの夏」「シヨムニ」等数々の作品の脚本を手掛けています。

TBS 金平茂紀キャスター



優れた放送番組などに贈られる第58回ギャラクシー賞が昨年6月に発表され、TBSの「報道特集」40年の歩みとこれから」が報道活動部門の大賞を受賞しました。

「報道特集」は毎週土曜日夕方に放送中。同番組のメインキャスターの一人に金平茂紀さんがおられます。金平さんは旭川商工会議所のホームページ上の令和4年新年交礼掲示板に左記のとおり投稿されました。

正直に申し上げます。
2021年の旭川は、僕の職業から見ると、本当につらい1年でしたね。
A Friend in a rainy day is a true friend.
「まさかの時の友こそ真の友」です。
2022年の旭川が、困難を克服して再び歩みだす1年になることを、心の底から祈っています。

旭川生まれのジャーナリスト
旭川観光大使
金平茂紀

旭川東高校から東京都立高校に編入、東京大学を卒業。TBSに入社。
報道局長、アメリカ総局長を歴任。2010年から報道特集のメインキャスター。「筑紫哲也NEWS23」とその時代など著書多数。

素晴らしい故郷・旭川



永江 朗

50歳になるまでは、毎夏のようにクルマで帰郷していた。朝早くに世田谷の自宅を出て東北道を北上する。深夜、青森発のフェリーに乗ると、空気に着くのは夜明け前だ。道央道を走り、旭川鷹栖ICへ。

ある年、東光にある両親の家に行く前に、見本林に寄った。ちょっとした時間つぶしのつもりだった。夏の朝の見本林はフィトンチッドの香りがした。小鳥たちの囁りが聞こえ、栗鼠が木の幹を駆け上っていた。東京で生まれ育った妻は、まるでメルヘンの世界のようにだどつぶやいた。林を抜けると美瑛川が見えた。

高校生のころは神楽に住んでいたから、見本林は身近だった。だが、こんなにも素晴らしい場所だとは気づかなかった。

見本林、神楽岡公園、そして少し離れているが北邦野草園など、住んでいるときにはわからなかった愛すべき場所は多い。

旭川東高校、法政大学文学部哲学科卒業。洋書店勤務を経て「宝島」別冊宝島の編集に従事。平成5年頃よりライター業に専念。毎日新聞の「今週の本棚」話題の本一欄に定期的に書評を掲載するなどコラム、書評、インタビューなど幅広い分野で活躍中。ラジオやNHKの「あさイチ」に出演など。

第四代会長・ 原公朗さんを悼む

名誉顧問の原公朗さんが昨年11月18日に逝去されました。行年88歳でした。

原さんは第3回総会から幹事をされていたので、役員歴は人生の約半分の42年にもなります。更に原さんには強い理念と実行力がありました。平成21年に会長代行になられた後、総会・懇親会への参加人数が停滞していた状況を打開するため、副会長・事務局長や幹事の意見を大いに採用されました。

会長に就任された平成22年には、旭川観光大使12名と市の幹部によるパネルディスカッション『旭川市の観光を考える』を開催しました。その中から新たな動きが生まれ、地元旭川との連携により、2年後の平成24年4月、JR旭川駅構内に石川啄木歌碑像が設置されました。この年から参加者は百名を超えるようになり、これが現在の講演会・ダンス総会・懇親会のスタイルのきっかけになりました。

これからも空の上からあの穏やかな笑顔で東京旭川会を見守って下さい。ありがとうございました。

(元事務局長 朝比奈康博)



▲在りし日の原公朗さん(中央)岩田公雄さん、朝比奈康博さんと第39回総会・懇親会(2015年10月)にて

*【予告】本年度第44回の総会・懇親会は、10月22日(土)午後5時からの予定です。

コロナ禍で思ったこと

「人新生」という言葉に出会う

森 由美子

巣ごもり生活で、本を読む機会が増えました。その中で出会ったのが「人新生」という言葉。人類が地球の生態系や気候に大きな影響を及ぼすようになった地質時代を表しています。

そもそも、新型コロナウイルス感染症など新興感染症の発生・伝播は、ヒトの活動の拡大に伴う森林伐採や温暖化などが原因とされています。

不自由な巣ごもり生活でしたが、立ち止まって環境問題を考える、ライフスタイルを再考する良い機会になったと考えています。

「ななかまど」の重要性

高橋照美

活動にブレキがかかっている中、「ななかまど」は、東京旭川会の備え付きのアクセラレーターです。しっかり踏み込んで、「会員相互の親睦」と郷土旭川市への貢献」というゴールを目指して走り続けましょう。

「活動の継続」

高木宏明

東京旭川会の活動はコロナ禍で2年にわたり休止状態ですが、『ななかまど』は、発行しようとの総意のもと、コロナ下での2回目の発行に漕ぎつきました。

昨年は、多くの会員の皆さまからいただいたご寄付により、財政状況を維持しつつ、活動が継続できました。この場を借りてお礼申し上げます。

今年の総会・懇親会は、10月22日

東京旭川会のご案内

◆沿革

創立(1977年)以来、旭川出身者及び旭川市にゆかりのある方々の友好親睦の集いとして、「ふるさとに出会える」を合言葉に、会員相互の親睦のみならず郷土旭川市への貢献を目的として活動しています。現在、登録会員は約300名、毎年定期総会・懇親会をはじめ「郷土訪問の旅」などの行事を重ね交流の輪を拡げています。

◆東京旭川会のホームページ・PR動画・Facebook

当会ではホームページやYouTubeなどで情報を発信しています。特にPR動画『ふるさとに出会える』を東京旭川会へ」には旭川市の懐かしい風景もふんだんに盛り込まれています。是非、御覧ください。



▲東京旭川会のHP

東京旭川会の役員構成

(18年12月1日)

- 会長 加藤 桂子
- 副会長 荒川 繁
- 事務局長 海老澤 美智子
- 常任幹事 大場 孝仁
- 会計幹事 樋口 正博
- 監事 山口 哲男
- 顧問 山原 尚美
- 相談役 藤口 巖

■ 幹事

- 柿林 博司
- 木島 英人
- 小林 信雄
- 佐藤 幸博
- 澤田 研二
- 杉本 一美
- 高島 芳美
- 東出 康宏
- 富川 秀史
- 山川 智
- 野作 雅章
- 安井 規雄
- 高橋 照美
- 朝比奈 康博
- 西谷内 力世

編集後記

「ななかまど」42号をお届けします。ふるさとの思い出を投稿いただいた永江さんをはじめ皆さまのご協力のおかげでここまでこぎつけることができました。厚く御礼申し上げます。

旭川は、昨年は不名堂な話題で全国区になりましたが、若い方たちをはじめとする色々な方たちの心温まる活躍も増えています。コロナ禍により、顔をあわせた編集会議に代えてEメールのやり取りで仕上げました。限られた紙面ですが、できるだけ多くの話題を盛り込みました。夢と希望に向かって邁進する故郷を微力ながら応援したいと思います。

編集チーム

- 小松 仁志
- 並河 典子
- 高島 芳美
- 東出 康宏

